



麻酔を味方に！

麻酔は頼れるサポーター！！

いくつになっても歯医者さんが苦手という方は多いのではないのでしょうか。歯科医院のキーンという音や消毒の臭いを嗅ぐとつい緊張してしまうという方、結構おられるのではないのでしょうか。患者様にできるだけ安心してストレスのない治療をご提供するために役立っているのが麻酔です。

表面麻酔

表面麻酔とは、麻酔を歯茎などの粘膜に塗ったり吹きつけて狭い範囲に使用方法です。例えば、麻酔の注射針を刺す際のチクツとする痛みをなくすために歯茎に塗ったり、お口の型を採る際の嘔吐反射を防ぐためにのどに吹きかけたりします。

浸潤麻酔

比較的浅いところにある細かい末梢神経に、注射を使って麻酔薬を浸透させます。一本から数本の歯の治療に用いられます。歯茎に注射するだけでしっかりと麻酔を効かせられる場合もありますが、症状に応じて、歯根膜や骨膜に注入したり、歯槽骨のなかに注射針を刺し込んで麻酔することもあります。また、奥歯の治療の場合は根が何本もあって治療の範囲が広くなりがちなので、麻酔がしっかりと効くように、注射を何本か打つこともあります。

伝達麻酔

あごの骨のなかを通っている太い神経に向かって麻酔を振りかけます。三叉神経に繋がりと、口の感覚を広い範囲につかさどる神経のおおもとから麻酔をかけることができるので、浸潤麻酔よりも広く、あご、歯、くちびるまでがっちり2～3時間にわたって麻酔をかけることができます。たとえば、親知らずを抜く時などの口腔外科手術に用いられます。



麻酔後の注意点

麻酔が効いている間は食事をとろうとしても、くちびるや舌、頬がうまく動かず誤って噛んで傷つきやすいです。傷ついてもそのときは気がつきにくく、後になってひどく腫れて傷むことがあります。食事は麻酔が切れてからにしましょう。

麻酔で治療のストレスをやわらげましょう！

クインテッセンス出版社 nico2013.3 号より

